



沢田内科医院

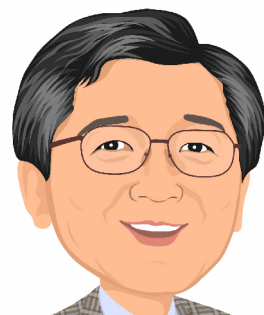
ニュースレター Vol.24

似顔絵

インターネットで探すといろいろなものが見つかります。名刺がなくなりそうなので、印刷しなければならないのですが、せっかく作るのですから、話題になるような名刺を作ろうと考えています。その一つとして、似顔絵を印刷したものにしようと思っています。インターネットで調べると何とかなるもので、目的とする会社を探し当てました。山内聡彦さんの歓迎会での写真がありましたので、それを基にして似顔絵を作ってもらいました。

今回の似顔絵は、笑顔が基本で、ホクロとシミがなくなり、シワも全くなくなりましたので、2、30 歳若返りました。髪だけは、グレーにされてしまいました。似顔絵は、

実際の写真と比べると、何となく匿名性があり、世間にさらしてもあまり抵抗はないですね。実際の写真と比べてみて下さい。



職員の間では、似ていると好評です。自分でも、眺めているうちに、自分の顔はこんな風に見えるのかなあと、だんだん気に入ってきました。

板柳の会津美奈子さんは、血圧を測っている時にこの似顔絵を見てしまい、あまりに似ているので、血圧が高くなってしまいました。きっといい男だと、再認識したのでしょう。

17年4月から午後の診療は3時からです

午後の診察時間は2時から6時までですが、来年4月から午後3時から6時までになります。最大の理由は、カルテ整理と保険の証明書などの事務的な仕事の時間を確保することです。

平成7年に開業した時は、月曜日から金曜日まではすべて午後も診察していましたが、1年後から水曜日の午後を休診にしました。自分の医院の診療時間と歯科医院の診療時間がほとんど同じですので、自分の歯が悪くなった時に、治療のために受診する時間がないことに気付いたためでした。

よく患者さんから、「先生は、風邪

を引かないんですか？」と聞かれることがあります。もちろん、私も風邪を引いたり、お腹をこわして、1週間くらい食事が十分摂れないことがあります。ウイルスを持った患者さんの中で仕事をしている訳ですから当然です。年に1日は、「ほとんどの患者さんは私よりも元気だなあ・・・」と思いながら診察しています。こんな時は、水曜日の午後に1回休みがあると、ちょうどいいタイミングで休養が取れるため、何とか乗り切ることができました。

世の中が複雑になると、手続きが複雑になってきます。ほぼ100%が保険診療ですので、お金を受け取るた

めには、書類を作成して手続きをしなければなりません。健康保険以外にも、たくさんの手続きが必要です。介護保険の書類もあります。入院した後に保険会社へ提出する証明書の作成もあります。このような事務的な仕事は年々多くなっています。これは私たちの通常の仕事ですので、商売が繁盛していることで喜ばしいことです。しかし、日中は通常の診療を優先的にしていますので、事務的な書類の作成は診療が終わった後や休日に行っています。

もう一つ、最近時間が足りなくなった原因は、1年半ほど前から行っているカルテの見直しです。先月で、開業してから9年が過ぎました。長

く通院していただいている患者さんのカルテは、分厚くなってきました。これを診察した時に見ているだけでは、重大な見落としが多くなる可能性が出てきました。そこで、「病歴要約」と称して、それまでの経過をまとめる作業を始めました。これを始めてから、必要な検査が行われていなかったり、不必要だと思われる薬を続けていたりすることに気付きました。

実際に整理してみると結構時間がかかるもので、これまでの 1 年半で 450 人分の病歴要約しか作れませんでした。風邪などの急性期の患者さ

んを含め、先月 1 ヶ月に受診した患者さんは約 1,600 人でしたので、カルテが厚い方から 1,000 人分の病歴要約を作ることを目標としています。これで、高血圧症、慢性肝炎、糖尿病などの長期にわたり治療が必要な、いわゆる慢性疾患の患者さんの大部分をチェックできるのではないかと考えています。

通院期間が長くなった患者さんと、入院治療した患者さんの病歴要約をその都度作成し、その病歴要約を 1,2 年に 1 回整理することで、見落としをできるだけ少なくしようと思っています。また、病歴要約は、皆

さんが他の病院を受診する時に役に立つと思っています。日本医師会では、「かかりつけ医」と言っていますが、「家庭医」としての私の役割も果たせるのではないかと、一石二鳥を狙っています。病歴要約が 1,000 人になった段階で、その活用方法を改めてお知らせいたします。あと 1 年くらいかかるかなあ……。

ということで、診療内容を充実させるためには、むしろ診療時間を短くして、日中にまとまった時間を確保することが必要だと判断しました。平成 17 年 4 月 1 日から実施します。

入院設備のある開業医はどんなスケジュールで仕事をしているのでしょうか。私の場合を紹介します。

私は 7 時に起きます（正しくは、起こされます。かつては、かわいい娘が起こしてくれたものですが、今はいなくなりました。ちょっと横道にそれますが、世の奥さま方、旦那さんの行動を変えるためには、娘を有効に使いましょう）。朝 8 時に出勤して書類やメールのチェックなどを行い、8 時半から 9 時まで入院している患者さんの診察を行います。外来患者さんの診察は 9 時から始めますが、胃内視鏡検査なども平行して行っていますので、通常は午後 1 時頃までかかります。風邪の患者さんが多くなる冬の間は 2 時近くまでかかることが少なくありません。2 時から午後の診察を始め、夕方は 6 時から 6 時半頃に終わります。

入院患者さんについては 8 時半に夜の状態を看護婦から報告してもらいます。9 時まで全員の診察を行い、その結果に基づいて治療方針を決めます。検査結果も分かりますので、昼前に看護婦が再び患者さんの状況を報告に来ます。午後の診察の合間に、その後の状況をもう一度看護婦が報告に来ます。外来が終わった後、具合が悪い患者さんがいると、病棟へ顔を出します。その後、書類を書いたり、カルテを整理しますが、会合があったり、自分の方が体力がない場合には、早めに帰ります。自宅に着くのは 7 時から 8 時の間です。

何時に寝るかって？ 12 時半から 1 時の間です。12 時前はベッドに入っても眠れません。その前にテレビを見ながらソファでうとうとすることもあります。目が覚めると元気になってしまいます。

「ドキュメント プーチンのロシア」NHK 解説委員の山内聡彦さん

弘前高校では、さまざまな分野で活躍する先輩を招いて毎年講演会を行っています。私が高校時代には、エベレストをスキーで滑った

直後の三浦雄一郎が、1 時間半の間、ずっと立ったままほとんど動かずに講演したことを記憶しています。11 月号の月刊「現代」を見ますと、三浦

雄一郎、鎌田慧、長部日出雄らが平成になってから講演に来ているようです。今年は、私の同期で、NHK の解説委員をしているジャーナリスト、

山内聡彦（やまうちとしひこ）さんが講演に来ました。

山内さんは、弘前高校を卒業した後、東京外国語大学ロシア語学科に進学し、NHK に入社しました。ちなみに、朝陽小学校、四中の卒業生です。当時のロシアは、もちろんベルリンの壁が壊される前でしたので、私には何となく不気味な存在でした。彼は、人がやらないことをやろうということで、ロシア語を選んだそうです。NHK にはもちろんロシアを担当するのを目的で入社しましたので、外信部、今の国際部に所属しました。そして、ブレジネフ時代の 1982 年から一貫してロシアを担当し、90 年にはモスクワ特派員、ウラジオストク支局長、98 年にはモスクワ支局長として活躍しました。当然のこととして、この時期には、モスクワから頻繁にテレビに出ていました。

前のニュースレターで書きましたが、野依教授の言う、「幸運は、用意する心のみに宿る」がここでも真実でした。つまり、ここが幸運だったのですが、ベルリンの壁の崩壊、ゴルバチョフのペレストロイカ、ソ連の崩壊、エリツィン大統領、そして、プーチン大統領の誕生とその後のプーチン政治という、世界でも類を見ない激動の時代の真っ只中で、ジャーナリストとして活躍できたのです。日本のジャーナリストとしては異例の 2 回にわたるプーチン大統領とのインタビューにも成功しています。

彼は、帰国後、NHK スペシャル「ドキュメント・ロシア」（プーチン 権力

への階段、苦渋の決断）を制作しました。その資料を基にして、「ドキュメント プーチンのロシア」（NHK 出版）を世に出しました。私たちは、2,30 ページの医学論文を書くのにたくさんの参考論文を読みます。それから考えると、考えられない位の膨大な資料を駆使して書いたことでしょう。日本では考えられないくらい短時間のうちに大統領に上り詰めたプーチン大統領のことが、自分の意見を入れずに事実を積み重ねていく手法で書かれているこの本は圧巻です。本の題名が示すように、ドキュメンタリータッチで書かれたこの本は、非常に入り組んだ内容で、すべてを理解しながら読むことなどできませんが、つい引き込まれてしまいます。

10 月 7 日の弘前高校での講演会の前夜、私たち昭和 46 年卒の同期生が歓迎会を開きました。正式には、弘前高校の歓迎会だったのですが、私たちが乗っ取った形になってしまいました。写真はその時に、ちょっとアルコールが入った時点でのものです。深夜 1 時まで付き



合ってくれましたが、次の日はちゃんと講演したそうです。それも 2 時間。写真の左端が似顔絵のモデルの私、真ん中が山内さん、その横が黒石病院外科の八木橋信夫さん、後ろが弘前市健康推進課の鈴木道夫さんです。

山内さんは、ロシア、アフガニスタンなどその周辺諸国のニュース解説に時々NHKに出ています。顔は、ビジネス用ですので、この写真とはちょっと違いますが、ニュース解説の時などに、注意して見て下さい。このようなジャーナリストが同期生から出ていることを誇りに思います。



モッホその後2

くどいですが、モッホの話題です。多分、これが最後です。浪岡町に「フクロウ館」というのがあります。浪岡町のりんご園に住んでいるフクロウの写真を撮り続けている、蛭沢博行さんが開いているものです。モッホの写真や彫刻がたくさん展示されています。すばらしいモッホの写真があり、一目で気に入り、大きな写真にしてもらいました。外来に展示していますのでご覧下さい。

フクロウ館で蛭沢さんから教えてもらったことがあります。女の人の目尻を見ると分かりますが、カラスを初め、鳥の足跡は3本です。これは、前の指が3本、後ろの指が1本で、物をつかまえたり、木や電線につかまるのに便利のようにできています。でも、モッホの足は前が2本、後ろが2本に分かれていて、肉食のモッホが獲物をしっかり捕まえる構造になっています。

ところで、私の家内はモッホの帯を持っていました。写真ではっきり分かりますが、このモッホは前に3本の指があります。つまり、この帯をデザインした人は、モッホの足をきちんと観察していなかったということです。モッホの指が2本だと知っている人なんかほとんどいないのに、「恥ずかしくて、

この帯は・・・」と言いながら、家内は禅林街での市民茶会へ行きました。弘前市内と青森市内のデパートで売られているモッホを、この点を重点的に観察して見ますと、何と、ほとんどが3本指でした。例の私の庭のモッホも3本でした。

もう一つ、モッホの意味についての話です。中里出身の成田さんの話では、中里、五所川原方面では、鳥のモッホのことは、「モホドリ」と「トリ」がつき、単に「モッホ」あるいは「モホ」と言う時は、津軽弁で言う、「モツケ」、あるいは、ちょっと足りないのろまな人のことを言うようです。でも、本当は、足趾の構造から分かるように、モッホは肉食で警戒心の強い鳥のようです。



診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	診療						休診
12:30~2:00	昼休み			昼休み			
2:00~6:00	診療	休診		診療	休診		

※時間外と休日は電話(37-7755)でご連絡をお願いします。
入院病棟に必ず看護婦がいます。

所在地

